

聴能形成の訓練システムと運用の改善と展開

河原, 一彦

<https://doi.org/10.15017/1807151>

出版情報：九州大学, 2016, 博士（芸術工学）, 論文博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏名	河原 一彦			
論文名	聴能形成の訓練システムと運用の改善と展開			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	岩宮 眞一郎
	副査	九州大学	教授	尾本 章
	副査	九州大学	准教授	高田 正幸

論文審査の結果の要旨

本論文は、九州大学芸術工学部音響設計学科が実施している聴能形成の訓練システムの構築と運用の改善のために、申請者が中心となって実施してきた研究成果をまとめたものである。

最初に、申請者は、九州芸術工科大学時代より音響設計学科で実施してきた聴能形成のカリキュラムとその特徴を改めて整理するとともに、他大学、他組織における類似の事例や海外を含む関連トレーニングの動向を述べ、九州大学の聴能形成のオリジナリティである集団訓練と「音のイメージ」の共有の重要性について論じている。また、聴能形成教育が広く求められている状況を整理している。

申請者は、聴能形成教育をより効果的かつ効率的に実施するために、聴能形成訓練システムの開発の中心的役割を果たしている。開発した訓練システムでは、ホストコンピュータが訓練音の制御と携帯情報端末からの学生の反応の収集および正答フィードバックを行う。このシステムは、聴能形成の訓練効率と学習効果の向上に寄与しているうえ、学生の授業満足度の向上にも寄与している。

2014年度からのカリキュラム変更に伴い、1年生前期の唯一の専門教育科目として聴能形成Iを伊都キャンパスで実施する必要が生じ、さらに移動可能な聴能形成システムを開発し、これまで実施してきた大橋キャンパスでの専用教室での実施と同等の教育環境を維持させた。さらに、過去の年度の訓練の成績との比較や、アンケート調査により、基幹教育開始後の1年生前期の専門科目として、聴能形成Iが適当であったことを実証した。

また、音響関連の企業からの要望により、音響設計学科の聴能形成カリキュラムを企業での社内教育プログラムすることに協力した。企業での聴能形成開始に先立ち、2回の試行トレーニングを行い、受講者において聴能形成の効果が十分に実証できることとともに企業側のスタッフが聴能形成カリキュラムの詳細について十分に理解できたことを確認している。申請者らの尽力により、当該企業は、自社内の聴能形成カリキュラムを立ち上げることができた。韓国の東亜大学校芸術大学音楽学部においても聴能形成の授業を行い、その効果を実証している。

申請者は、さらなる聴能形成に対する需要を満たすため、聴能形成インストラクタを養成するための公開講座を開講した。公開講座では、インストラクタが付加価値の高い聴能形成シラバスを作成し実施するために必要な運用の手法についても教授した。公開講座受講者に対するアンケート調査の結果より、講座の内容は講座受講者の要求を満たすのに適切なものであることが実証されたのみならず、この公開講座を受講した者が、それぞれの立場で聴能形成カリキュラムを立ち上げている事例が多くみられた。

以上のように、申請者は九州大学音響設計学科が実施している聴能形成の訓練システムの構築と運用の改善に対して様々な試行を実施し、効率的な聴能形成訓練システムの開発とその運用、状況

の変化に応じた聴能形成の運用とその教育効果の検証，外部機関での聴能形成の運用とその効果の検証，さらには聴能形成の運用サイドの人材養成に取り組み，着実な研究成果を得ている。本研究により，九州大学における聴能形成訓練の改善が図られ，教育環境の変化に対応した持続性が保証されるとともに，聴能形成訓練を広く社会に広めることができた。

本研究で得られた成果は，音響関連産業界で活躍できる人材を育成するために適用できるものであるとともに，学術的にも大きな意義のある形式でまとめられており，関連分野に大きな貢献をすることが期待できる。学位審査を厳正に実施した結果，本論文が博士（芸術工学）の学位授与に値するものと認める。